

『向島の豊かな自然と生きものたち』

第3回 向島の蝶

蝶を知らない人はいないと思うけど「蝶」とはいったいどんな昆虫で、向島にはどれくらいいるのでしょうか？

ヒラヒラと飛び、花の蜜を吸うのにぴったりの口を持ち、キャベツ畑にたまごを産む白い蝶からミカンの木にたまごを産む黒い蝶、小さい蝶や大きい蝶…、日本全土には約246種(山溪フィールド図鑑・蝶より)の蝶がいるそうです。

広島県内にはその内の約134種、向島のちかく(尾道・三原・福山・御調・向島・因島)には121種いて、向島には私たちが見ただけでも43種がいました。

標本を持っているのはその内の41種くらいです。

数年前からいろいろな場所でとった蝶の中から、今回は向島の中で見つけた蝶を見てもらいたいと思います。

小さい蝶からかなり大きなものまで、1種類ずつのものもありますがオスとメスが区別できたものは並べてみました。

蝶は1年に度しか見られない種類も、1年に数回見られる種類もあります。

それは幼虫時代に食べたエサ(どんな草を食べたか?どんな木の葉を食べたか?)の違いが原因の1つと考えられているほど、ほかほかおもしろい生態が身近に見られる昆虫でもあります。

地球温暖化や自然環境が悪くなったために数が減る種類があったり、逆に昔は日本にいなかった外国の蝶が見られたり…環境問題を勉強するとき「蝶を見ること」から始めるのもいいと思います。

海に囲まれているけど本州(尾道)に最も近い島でもあり、南へは島なみが続いて四国につながり、その先は太平洋…こんな向島の豊かな自然を感じてください。